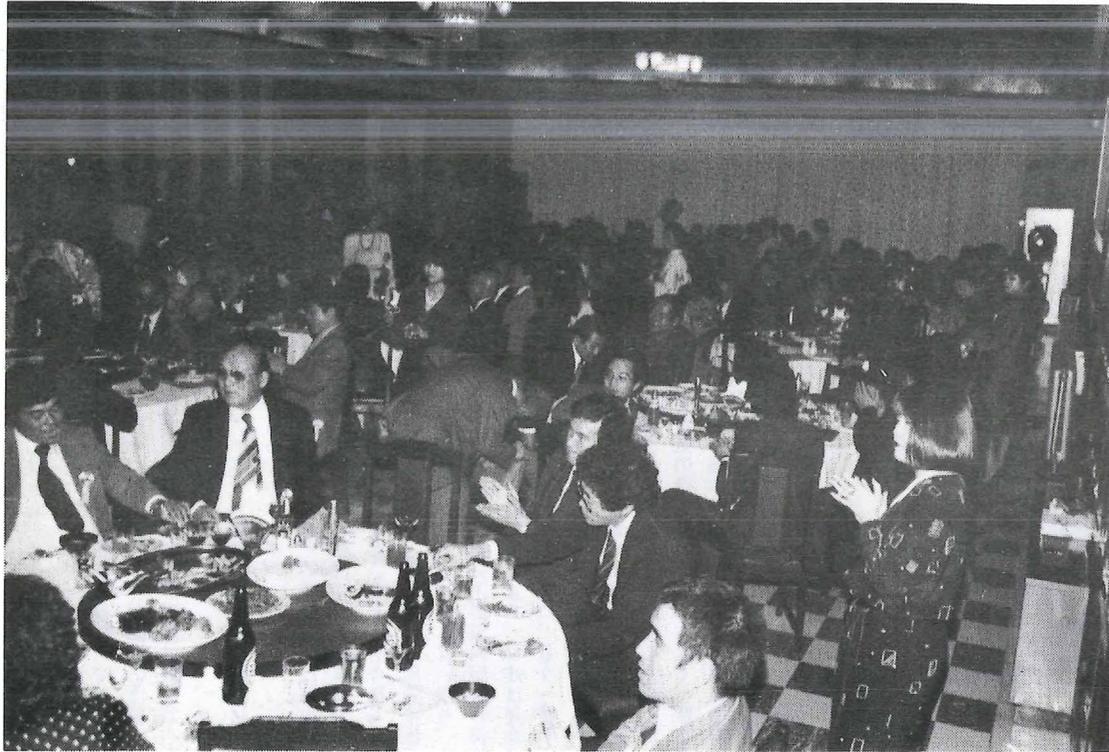


# いなづま

題字 小寺 寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合  
 編集 総務部  
 住所 函館市日乃出町7番22号  
 印刷所 島山印刷



祝 組合創立35周年

## 創立35周年記念式典 にあたり

理事長 大倉 伸夫



明けましておめでとうございませう。

今年には当組合の創立三十五周年に当たります。

昭和二十三年組合の大先輩たる数名の方々が組合設立の必要性を語らい、申し合せ組合から翌昭和二十四

年二月に登記を完了して正式に当組合が発足してから三十五年、今では二五〇社の組合員を擁する札幌に次ぐ大組合に発展して参りました。

当組合の歴史は、北海道では一番古くその基礎を作った下さった先人に対し心から感謝申し上げる次第であります。

組合の業務も、当初の配電会社に対する窓口業務から現在では各種保険・金融業務から夫々の技術向上のための諸事業、保守管理業務等窓口も広くなり、組合員の親睦を中心に年々発展を遂げて参っております。

特に昨今の景気の低迷下にあつては、各支部を中心に益々組合員同志の団結協調により業界の地位の保全に努める事は勿論、営業技術の拡大により地域の発展と共に近代化を図らなければならない時期になっているのであります。

三十五年と言えば人生の一代の節目であります。

組合創立時の組合員は既に二代目の経営に入っている組合員も数多く、他の組合員もそろそろ後継者にバトタッチを行なわなければならない時期でもあります。

当組合でも昨年から青年部も発足し、今後の業界の若返り近代化と取組み始めているのであります。  
 どうぞ御来賓の諸官庁及び北海道電力株式会社を始めとする皆様方の変らぬ御指導と組合員の皆さんのたゆみないご努力により、本組合が益々強固な組織となりますように各位のご指導ご協力をお願いいたします。ご挨拶いたします。

ごあいさつ

北海道電力株式会社函館支店

支店長 益山久男



函館地方電気工事協同組合の創立三十五周年を心からお祝い申しあげますとともに、北海道の電気事業発展のために全力を傾注されてきた先輩各位並びに三五〇余社の組合員各位の平素のご努力に対し、深く敬意を表する次第であります。

三十五年間の輝かしい歴史を回顧いたしますと戦後の激動期に始まり、わが国の経済成長に合わせて、様々な技術革新、合理化の波をかくぐり、現在、二五〇社の団結協調のもとに発展を遂げられている有様を見いたしますと、大倉理事長以下役員各位の適切なご指導と、組合員各位の盛上る協力によって今日の金字塔を築かれたものと拝察し、改めて、重ねてご祝詞を申し述べ次第であります。

現在、函館道南圏の経済不況は誠に深刻で電力需要の伸びも長期低迷いたしておりますが、谷があれば山があるのとえのとおり、昨秋以来、世界経済はアメ

リカの景気回復を契機にして漸く立直りの兆しを見せております。しかしながら、本道とくに函館道南地域は、構造的原因によって、いっそうの忍従を強いられ、現状はまさに「津軽海峡冬景色」であります。しかしながら、今、函館では、官民あるいは産・学官協同で、総力を結集して地域の活性化に向けて、努力を重ねております。

この意味でテクノポリス函館の指定は、函館活性化の道標ともなるものであります。

北海道電力が今日あるのは、ご支援頂いた函館地方電気工事協同組合の皆様のご厚情ご支援の賜物であります。当社に今まで頂いた暖かいご支援を今後も賜わりますようお願い申し上げますとともに、函館道南圏経済が活性化し北海道経済が盛り上ってこない限り、北海道電力の未来も、函館地方電気工事協同組合の将来も画くことはできないのであります。私達は運命共同体となつて、地域の活性化のために、もう一度手を取り合つて進もうではありませんか。それが輝かしい先輩の歴史を継承したものの勤めではないかと存じます。今、産業構造は歴史的転換期を迎えておりますが、従来にも増して電気の役割りと責務は大きく、新しい産業、企業と当社を結ぶパイプ役としての貴組合の、今後益々のご発展を祈念いたしましてごあいさつに代えます。



役員会だより

第六回役員会

五八・一〇・七

一、慶弔報告

(一) 坂本事務局長母堂ご逝去

(二) 棚代ム代表者尊父ご逝去

二、貸付報告

一 二社 四四五万円

三、各支部報告並提案事項

各支部より電気使用安全月間の行事として実施したボランティア活動について報告された。

四、総務委員会事項

(一) 青年部設立の報告(詳細については前号掲載済)

(二) 事務所改築費用の報告

(三) 事務局職員の燃料手当支給報告

(四) 税務署の調査について

(五) 昭和五八年度年末特別融資について

(六) 永年勤続者の表彰式について

(七) 日時 昭和五八年一月二二日午後三時

(八) 場所 組合会議室

(九) 負担金 一名当り三、〇〇〇円

(十) 会計中間監査について

(十一) 事務局慰安旅行について

五、技術・教育委員会事項

(一) 配電仮設工事について

(二) 主任電気工事士会議について

(三) 北電工量単価の特別加算について

(四) 北電引込以下工事資材業者持制度について

(五) 電設付帯架空引込線工事用資材管理基準

(六) 外線工事要領第二編引込線工事

※ともに組合員宛頒布済み

(七) 北電引込以下工事機械化処理について

引込以下工事マークカードをテストとして作成提出した結果、大部分がエラー処理された。

六、事業委員会事項

- (一) 電気使用安全月間運動の報告
  - (二) 子メーターの検満について
  - (三) 全日電工連の「経営者大型保障プラン」について
  - (四) 住友グループ共済制度について
- 同一事故により二回以上入院した場合の二回目以後の入院の支払いについては、その事故の日から起算して一八〇日以内に開始した各入院について入院日数を合算し、規定内日数について支払いをする。

第七回役員会

五八・一一・二二

- 一、慶弔報告
  - (一) 齊藤電気商会代表者母堂ご逝去
  - (二) 南西岡電気商会代表者義母ご逝去
  - (三) 平山電気工事店代表者怪我入院見舞
- 二、貸付報告
  - 七社 三一五万円

三、各支部報告並提案事項

- 東支部 Ⅱ懇親会を開催した。
- 中渡島支部 Ⅱ北電の検修について討議した。
- 八雲支部 Ⅱ(森ブロック)
  - (一) 北工連絡会を開催した。
  - (八雲ブロック)

(一) 仮設工事、安全対策費、資材取扱手数料について説明した。

四、全日電工連第一回所属員全国大会および創立二五周年記念式典の報告

五、総務委員会事項

- (一) 道工業組合総代会及び連合会創立三〇周年記念式典の日程
  - 期日 Ⅱ昭和五九年二月二八日(火)
  - 場所 Ⅱ北海道厚生年金会館
  - 時間 Ⅱ

(1) 工業組合役員会	10...30	12...00
(2) 工業組合総代会	13...00	15...30
(3) 連合会記念式典	16...00	17...00

(昭和五八年度年末特別融資について (詳細前号掲載済))

- (二) 昭和五八年度年末特別融資について
- (三) 永年勤続者表彰式について
- (四) 会計中間決算について
- (1) 会計中間決算および年度末決算見込額について説明
- (2) 会計中間監査報告
- (五) 組合新年宴会および創立三五周年記念式典の開催について
  - 詳細は総務委員会に一任する。
- (六) 事務局職員冬期手当について
  - 三役に一任する。
- (七) 道南建設業交通安全大会について
  - 佐々木(三)理事より報告

六、技術・教育委員会事項

- (一) 支部対抗電気工事技能競技大会について
  - 開催の是非について審議の結果、取敢えず本年度は中止することに決定した。
  - (二) 主任電気工事士研修会の開催について
    - (三) 経営研修会の開催について
      - 期日 Ⅱ昭和五九年二月二四日(金)
      - 時間 Ⅱ午前九時〜午後四時
      - 場所 Ⅱ組合会議室
- (四) 北電引込以下工事の機械処理について
  - (1) 引込線工事金・配電計器工事金支払控除明細表および工事金送金・相殺明細書について説明
  - (五) 全撤工事の取扱いについて
  - (六) 電設付帯引込線工事の竣工調査および品質管理に伴う抜き取り調査について

七、事業委員会事項

- (一) 住友団体共済制度について
  - 組合運営費、組合事務費の還付報告
- (二) 第三者損害賠償制度事故調査費の還付報告

支払補償金 Ⅱ一、一三三、七四五円(八件)  
 事故調査費 Ⅱ一〇六、六八五円(五%)  
 還付額 Ⅱ六四、〇一円(三%)  
 対象期間 Ⅱ57・11・1〜58・10・31

(三) 全日電工連互助会の適用について  
 従来は本社事務所で事故が発生した場合のみ適用されていたが、出先事務所でも発生した場合も恩恵を得たいと云う希望があって、出先事務所も会費を納入して適用を受けることに変更される。

組合員消息

一、一〇月中旬 平山電気工事店代表者平山博殿怪我入院(二月末退院)

- 一、二月二九日 畑山電気商会代表者畑山清治殿ご母堂逝去
- 一、二月一七日 和島電気商会代表者和島勝殿ご令室逝去
- 一、一月二日 榑工藤電気商会代表者工藤義一殿逝去
- 一、一月二六日 鈴木電器商会代表者鈴木実殿ご母堂逝去
- 一、二月四日 榑本間組代表者本間芳治殿ご母堂逝去
- 一、二月九日 司電気工事店代表者氣屋村憲治殿ご母堂逝去

組合行事

- 9月3日 函館市町連主催防犯灯打合会議に佐々木(三)理事出席
- 6日 北部協組創立三十周年記念式典に吉田副理事長出席(於稚内市)
- 8日 道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
- 9日 道厚生年金基金役員会・代議員会に大倉理事長出席(於札幌市)
- 16日 中渡島支部会議
- 全日 青年部役員会
- 19日 子メーター検満打合会議
- 21日 中支部会議
- 26日 「電設付帯引込線工事システム移行説明会
- 28日 小規模企業振興委員会に坂本事務局長出席(於函館商工会議所)
- 10月5日 道工業組事業内訓練校連絡協議会に吉岡指導員出席(於札幌市)
- 7日 第六回役員会
- 全日 北電函館営業所管内第一回北工連絡会議に大倉理事長ほか役員一名出席(於北電)
- 8日 中央会道南支部事務長会議に坂本事務局長出席
- 10月8日 事務局職員慰安旅行
- 14日 東支部会議
- 17日 空知協組創立三十周年記念式典に大倉理事長出席(於滝川市)
- 18日 道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
- 19日 総務委員会
- 21日 昭和五八年度年末特別融資説明会
- 全日 西支部会議

- 10月24日 全日電工連創立二五周年記念式典に大倉理事長出席
- 25日 会計中間監査
- 26日 東支部会議
- 全日 青年部役員会
- 11月11日 昭和五八年度年末特別融資審査席(於建設業会館)
- 12日 道南建設業交通安全大会に佐々木(三)理事出席(於建設業会館)
- 15日 道工業組合役員会・委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
- 18日 中渡島支部会議
- 22日 永年勤続者表彰式(詳細別掲)
- 全日 八雲支部森ブロック北工連絡会
- 12月8日 三役会議、総務委員会
- 全日 東支部会議
- 9日 道工業組合役員会、委員会に大倉理事長、吉田副理事長出席
- 全日 赤川支部会議兼忘年会
- 20日 いなずま編集会議
- 21日 対北電打合会議に吉田副理事長ほか役員二名出席
- 22日 小規模企業振興委員協議会に坂本事務局長出席(於函館商工会議所)
- 29日 御用仕舞

組合員の異動

商号・代表者の変更

(新) (旧)

- 一、(株)工藤電気商会 代表者 工藤雅史
- 一、(株)松本電気工業 代表者 工藤義一

電設付帯引込線工事の竣工調査  
および品質管理に伴う  
抜取り調査について

標記について資材管理基準によって必要に応じ抜取り調査を行うこととなっておりますが、今後左記により取進める旨北電函館営業所より通知がありましたのでお知らせいたします。

- 一、調査日数 一工事業者半期一回程度
- 二、調査品目 引込電線・電線ヒューズ・碍子・自動点滅器
- 三、調査方法 北電の指定品であるかを目視点検で行うが疑義がある場合は詳細に点検する。
- 四、報告 調査結果については、当該年度の実施分を四月末日まで別紙様式(省略)により拠点営業所を通じ本店に報告する。
- 五、その他 (一)、抽出時期については各営業所の計画による。(二)、右記とは別に不良品が発見された場合、その都度拠点営業所に報告する。
- 六、しゅん工調査票の変更 点検項目を改める。なお「しゅん工調査票」は手持ちを消化次第新様式に切替えることとし、それまでは手修正のうえ使用する。

以上



# 組合創立35周年記念式典 ならびに新年宴会開催さる

去る一月二十七日、当組合の「創立三十五周年記念式典」が恒例の新年宴会を兼ねて五嶋軒本店において挙行されました。

この式典を挙行するに当り、理事会では不況の昨今を考慮して是非を審議したのでありますが、一つの節目として必要な行事であるとの判断のもと、質素にしようとのことで実施されたものであります。

式典は午後五時三十分より関係官公庁、北電、関係金融・保険機関、電設資材業関連、道工業組合の島津錦戸正副理事長など三十五名の来賓、組合員、事務局等計百六十五名の出席を得て、細川副理事長の開会のことばによって始まりました。

来賓各位の紹介、関係物故者に対する黙禱についで大倉理事長が挨拶したあと、北海道中小企業団体中央会々長より組合功労者に対する表彰が行なわれ、十年以上に亘って組合役員の任に尽くされた大倉理事長ほか五名の役員が栄ある表彰を受けました。

来賓側からは、函館市長、北海道中小企業団体中央会長、北電函館支店長（ともに代理）および北海道電気工業業工業組合理事長と鄭重なる祝辞をいただきました。

祝電披露のあと最後に吉田副理事長の閉式の言葉により式典は無事終了しました。

引き続き祝宴を兼ねた恒例の新年宴会が、松風町の美女多数を交え、錦戸道工業組合副理事長の祝盃、阿部函館市議と函館市都市建設部勢田部長の二人による鏡開きで開宴されました。

例年の支部対抗のど自慢に加え、来賓各位も心快く自慢のノドをご披露して宴会を盛り上げ、午後八時北海

道電設資材卸業組合の青柳函館支部長の音頭により関係者一同の益々の繁栄と健康を祈念しての方才三唱で無事終宴となりました。



島津理事長 祝辞

## 『主任電気工事士研修会』

左記要領により標題研修会が開催されますので、貴事業所の主任電気工事士を必ず出席させるよう取計らい願います。

記

- 一、名称 昭和五十九年度主任電気工事士研修会
- 一、目的 主任電気工事士の資質の向上を図る
- 一、主催 北海道電気工業業組合  
函館地方電気工事協同組合
- 一、後援 札幌通商産業局・北海道  
北海道電力(株)・北海道電気保安協会
- 一、日時 昭和五十九年三月二三日 13:00～17:00
- 一、場所 ホテル・アカシヤ  
(函館市柏木町一三六 電話②二二二)
- 一、議題・時間・担当

内 容	時 間	担 当
挨拶	13:00～13:10	組 合
電気事故防止	13:10～14:00	通商産業局
業法立入検査	14:00～14:50	北海道庁
内線工事留意事項	14:50～15:40	北海道電力
定期調査結果	15:40～16:30	電気保安協会
質疑応答	16:30～17:00	

- 一、対象者 主任電気工事士は必ず受講のこと。ただし都合により出席出来ないときは代理出席を認めます。
- 一、受講料 一名につき二〇〇〇円(当日会場で申し受けます)。
- 一、テキスト 無料

以上

## ふたたび中国へ

その四

平 沼 智 子

おそい時間なのに三十名位の政府の方々が出迎えて下さる。三分の一位は袖口の広い服装の中国の僧であった。休憩室でお茶を頂き双方挨拶の交換があり三十分位でホテルに向う。北京は非常に寒い。冬はまだまだ寒くなるのだろうか最低は何度ぐらいなのだろうか。バスの窓は外気との温度差で真白、空港から市街地迄の沿道は街灯に照らされた「水杉」の並木道で霜がチカチカと光って美しい。上部を丸くこんもりと刈り込んでいる。今夜のホテルは「燕京飯店」である。

北京は紀元前一〇〇〇年頃「燕」という国の都であった。「燕京飯店」の名称もそんな関係でつけられたのであろう。このホテルは新築二年目との事である。

「北京原人」シナントロプスキネンシス」で有名な北京は、五十万年前にすでに人類が住んでいた。記録に残っているのは「燕」の都で「薊」と言っていた時からで、秦の始皇帝が統一を果してから、一〇〇〇年の間首都となる。その後北方民族との興亡をくりかえし「金」(十二世紀)「元」(十三世紀)「明」「清」といづれも首都であった。「明」の時代に「北京」と呼び今日に至っている。現在の街並はほぼ「明」の時代のものであり、皇城の改修も始められた。

現在の北京は二万七千方キロ、人口八百五十万人道路は十車線その外側は自転車道路、又その外側は街路樹が並びそして人道である。まさに道巾百メートルの広さと言っても過言ではない。広大な土地を十二分に使用して、うらやましい位の空間を持つ大都会である。ビルも結構建てをり吾々の泊ったホテルも十八階建である。労働者用のアパートも国家の力でどん

どん建設されている。家賃は無料であるが、通勤の関係で住むアパートは国家に指定されて個人の自由にはならない。さすが首都だけあって車が目まぐるしく行き交う。軍用は白ナンバー、公用は黄、みどりは北京市内専用、又ナンバーの頭二ケタの数字は各地方を表はす。個人用の車はなくオートバイを買っても燃料は支給されない。人民の交通機関はもっぱら自転車とバスである。通訳は月給六十円で百円の給料をもらう公務員はよほどの上層部の人で「長老」と言はれる人達である。

自転車……百八十円

トランジスタラジオ……百円

白黒テレビ(十四インチ)……四百円

カラーテレビ(十四インチ)……千三百円

靴……十八円——二十円

腕時計……百五十円(日本製が安く他の外国製品は高いとの事)

結婚して、子供が一人のうちは一才から十八才迄は医療は勿論、学資も無料、子供が二人になるとこの特典はゼロになる。三人生まれると罰金が課せられるとの話である。学制は六(小学)六(中学)三(高校)四(大学)で更に医者志望は五年、軍人志望は六年を要する。僧は高校卒で国家試験をうける。僧は戒律がきびしく酒を飲む事も結婚する事も許されない。

中国にも定年はあり男六十才、女五十才で給料は三十パーセントダウンする。

表敬訪問は代表者だけとなったので早速市内観光に

出かける。とに角天候は快晴だが寒い。寒気が頬にピリピリ刺さる。少し風があったせいかも知れないが……。現地人は綿の入った上衣(ヤッケ風)を丸々と着込んでいる。「午後寒気は和らいだが午前中は首をちぢめていた」。昨日は夏スタイルだったのがあわてて重ね着である。身代ありったけとはこの事か。下着まで重ね着でスカーフを二枚持ってバスに乗る。

天安門見学。真赤なベンガラ塗りで三層の樓閣を持つ。黄色の屋根瓦が朝日に輝いている。正面に故毛主席の写真が掲げられている。明るい写真である。掃除が行届いているのか汚れもなく美しい。

写真の右「世界人民大団結万才」左「中華人民共和国万才」の横額が掲げられている。一九四九年十月一日、毛沢東がこの門の二階から「中華人民共和国成立」を宣言した。この門は「明」の永楽帝が創建し、「承天門」と言っていたが、「清」の一六五一年に改修されて「天安門」となり現在に至っている。

赤い柱、黄の瓦は皇帝の位を表わすものである由、門は故宮(紫禁城)の正面城門であり、白大理石の通路が天安門前の広場から入口迄つづく。門に比して入口の小さいのは城壁なるが故である。樓閣の壁や庇の裏はすべて金・みどり・赤で文様を施す。下から見あげると幾何模様に見えて美しく、どこまでもつづくのは見事。欄干は白大理石、朝の冷たい陽にチカチカと輝いている。屋根の瓦は黄釉をかけて焼いたものである。

天安門広場。この門の前が有名な天安門広場である。南北八〇〇メートル、東西五〇〇メートル、約四十万人を収容出来る。百メートル巾の道路が縦横に走り、広場の向うの立木など小さく見える。とに角広い。この天安門広場は「中国の顔」と言ったのもむべなるかなと感心。

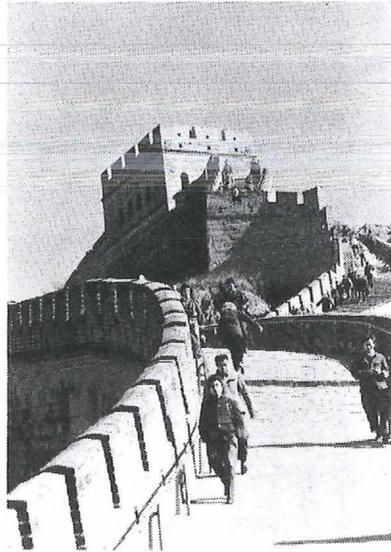
広場の向い側は人民大会堂(日本の国会議事堂にあたる)とその附属建物である。国家的行事や国際的会

議に使用され、中国の政治の中核である。広大な土地に好きなだけのスペースを取ったのだろうが、革命記念日などに広場を埋める民衆をテレビで見たが、ここに自分が立って広場を眺めると四十万人集まると言うのもウソではない気がする。

広場にニョッキと立っているのが「人民英雄記念碑」である。天安門から見ると小さく見えるが、人民大会堂の高さ四十五メートルに比べると相当の高さの塔である。

故宮見学。「明」「清」時代の皇城で「紫禁城」と呼ばれていた。建物の入口に掲げられている扁額の漢字の横に梵字のようなものが書かれている。通訳の話では満州族(清)は文字を持っていたので、それではなからうかと言われているとの事である。

大和殿は皇帝の公式の居間で真中に玉座がある。撮影許可との事で皆カメラを向ける。ガイドブックには部屋数九〇〇〇とあるが、見学したのはほんのごく一部だけである。通路の至るところに雲龍を彫った大理石がある。長さ十三メートル、巾二メートル、厚さ二十センチの一枚板の大理石を何枚も使用し、建物から建物へとつづく通路や階段に使用されている。それにしてもよくまあ大理石を使用し、更に一枚一枚に彫刻したものと感心。日本なら同じ図柄でなく山水、花鳥等バラエティに富むが、この紫禁城は全部雲龍である。しかしこの彫刻を製作するにも人民は大変な苦しみだったのだらう。大理石の白さが陽の光に反射してキラキラと目を射る。交泰殿は小さな建物であるがここに「水時計」(漏刻台)があり興味深かった。下準備の勉強があれば



つとよく観察して来られたのにと残念に思う。

保和殿は現在宝物館となっている。冠、剣、食器、装身具等どれもこれも金・金・金に宝石づくめである。豊臣秀吉も金趣味であつたらしいが、あれもこれも金づくめなので最後はあきれてイヤらしくなつた。西太后は女帝として思う通りの贅をつくしたのだらうが、ここに陳列してあるもののほかに「清」が滅亡する時に失なはれたものが沢山あるのであらう。漢民族のにくしみや哀しみがこの部屋に満ちているような気がする。象牙を二ミリ巾に裂いて編んだ敷物は圧巻であつた。

「清」は満州族で漢民族の「明」を倒しての統一であるから、漢民族に対して権力の誇示が絶対に必要だったのだらう。これでもか、これでもかと言わんばかりの圧力を感じる。最後はかけ足で観ても二時間たっぷりかかる。外に出て見て城壁の長いこと、長いこと、周囲三キロとは実際の距離なのであらう。学術的にきめ細かく見学したら別の面のよさも理解出来るのだらうが、私には征服者の傲慢さだけが後味悪く残つた。

西太后について。たまたま、団伊玖磨氏の随筆を読む機会があつた。その一部を使用させて頂くと、西太后は咸豊帝(一八六一年)の側室で、皇后に嗣子がなかった為、自分の生んだ男子「載淳」が六才のとき、咸豊帝が熱河の離宮で死亡したので同治帝となつてから権力を振うことになる。皇后が東の綏履殿に住んでいたため東太后と言ひ、新帝の母の彼女は西の平安室に住んだので西太后と呼ばれた。残酷な事では則天武

后に匹敵するのではないかと思う。或いはそれ以上かも知れない。吾が子の若い皇后が東太后が選んだと言だけの事で別居させ、淋しさのあまり同治帝が城をぬけ出して妓楼に通つた末に梅毒に感染し、重ねて天然痘を患つて死の床にあつたのを見舞つた若い皇后の髪を掴んで引ずり廻し、家臣に棍棒を持って来させて虐待する。この地獄を見て同治帝は十九才の若さで死亡、皇后は餓死させられてしまふ。何が彼女をこのような鬼畜の道に走らせたのだらうか。西太后の残された写真に手の爪が四―五センチも長くのばしたのがある由、何もしないのだから爪が長くてもいいのかも知れないが、それにしても四―五センチも長いとは獣の爪を思はせるのではないか、鬼畜の心を持った彼女にふさわしい爪と言つたら、私の悪口とそしられるのだらうか。団伊玖磨氏の文章の終りの方に中国人との会話が有り、たまたま爪の話となつて日本人の言う「爪」は中国では獣の爪のことであり、人間の「爪」は「指甲」と言う由、西太后のように爪を長くのばしている事を「留指甲」と言うそうである。中国から帰つてすぐ読んだ一文だったので妙に心にいつまでも残っている。

(以下次号)



### ★経営研修会開催さる

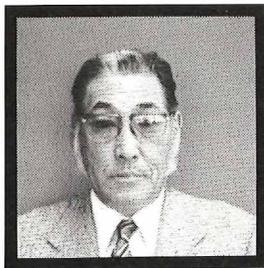
去る二月二十四日組合会議室に於いて施行された。これは北海道電気工業事業工業組合の年間行事の一つとして、松下電工の全面協力をえて昨年より行われているもので昨年は住宅の設計積算を主とした内容であったが、本年は技術営業の拡大によって80年代を生きぬく電気工事店の経営と云うテーマで主として経営者向けの研修会を行った。

当日はあいにくの大雪で交通渋滞のせいもあり郡部からの参加は少なく四十名(三十五社)にとどまった。スライドを交じえた松下電工の三名の講師の熱心な講義に参加組合員の真剣なまなざしが印象的な研修会であった。

工業組合では来年度もこの様な研修会を継続企画して施行する予定である。



### 追悼記



㈱工藤電気商会工藤義一氏は去る一月二日午前〇時三十分、脳溢血のため函館協栄病院にて急逝されました。ここに御冥福を祈りつつ追悼の記を綴ります。

氏は大正十三年函館市海岸町に生まれ、昭和十三年高小卒業後家族と一緒に旧満州へ渡り、満州鉄道・満州電気土木会社へ勤務し、兵役を経て昭和二十一年一月故郷の函館へ帰国道南電業㈱へ入社されました。

当時の道南地方は戦後初期の電化工事の最盛期の頃で、市内の内線工事の他国鉄の工事や道南一円にかけての農漁村電化工事に日夜を問はず仕事に励み誰にも負けない努力と技術の研鑽にはげんでこられました。

昭和二十五年に結婚され、三十年に当組合に加入されましたがこの前後数年間は工藤電気商会の創成期と云うべき時期で、あちこちの下請や応援を含めて奥様共々苦勞されたやに聞いております。奥様も幼なかつた息子さんを背にして引込改修工事の下廻りをやったりヤカーを押しした事も再三だったそうで、当時からゲートルを巻いて完全装備のいでたちが印象的で、「ゲートルの工藤さん」のニックネームと共にこれらの話はいつまでも私共の脳裡にやきついております。

仕事の誠実かつ適確なことは我々同業者一同が認めるところで、北海道電力の優良工事業者として十回も表彰され、昭和五十一年には電気保安功勞者として札幌通商産業局長の表彰をうけた事でもあきらかであります。

組合にあっては永年に亘り理事として又北支部長、赤川支部長として常に良き指導者、相談相手として信

頼され、役員会等に於いても常に弱者の立場にたった正論を吐く正義漢でもありました。又『いなづま』の発刊当初から編集者としてその手腕をふるい、更には発足当初からの訓練校の指導員として幾多の技能者の養成に尽力して来りました。

若い頃からかなりの酒豪でいろ／＼酔虎談もあつたようですが、ここ数年体調を考えて大分自戒して居りましたが酒席では必ず演歌の名調子が出たものです。洪く張りのあるあの歌声が、印象的な白髪まじりのモミアゲと共に聞けなくなったのは淋しい限りです。

嘗々と積みあげた社業もご息子が承継ぎ立派にやうてゆかれる事と思ひます。

工藤さん、貴方が残した数多くの教訓実績は必ずや我々後輩が守り語りつたえて、末永く貴方の功績をたたえるものであります。

工藤さん、ご苦勞様でした。ご冥福を心よりお祈りいたします。

### 編集後記

○ 選挙の一年間であったと云つても過言でない五十八年から新しい昭和五十九年を迎へてもう二ヶ月が過ぎようとしております。不況のさ中、何とか生きのびる策を思案中の昨今ですが、「マイクロエレクトロニクス」とか「ニューメディア」とか「ハードよりソフトの時代」等の言葉は頭で判つたつもりでいても私達の商売にどの様に関連したの様に活用したらよいものか、まさに暗中模索と云つた状況は私だけではないと思ひますが……いながつま発刊以来の名編集員で又組合の指導者であつた工藤義一さんが急逝されました。善い人は早く亡くなるのでしょうか。当編集部も淋しくなりました。ご冥福を心よりお祈りする次第です。

